

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

討議年月日:令和 7 年 3 月 24 日

公表:令和 7 年 4 月 1 日

事業所名 希望の丘豊橋

| | チェック項目 | はい | いいえ | 工夫している点 | 課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標 |
|-----------------------------------|--|----|-----|---|---|
| 環境・体制整備 | 1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である | ○ | | | |
| | 2 職員の配置数は適切である | ○ | | 職員同士声をかけ合い、安全に見守れるように気を付けている。 | |
| | 3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている | ○ | | 利用児が不便を感じる凸凹はない。 | |
| 業務改善 | 4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している | △ | | | 来年度は月毎に的を絞った目標設定と振り返りを行っていく予定です。そうすることによって職員の意識が高まり、様々な視点で発達を見ることでスモールステップで課題が設定でき、子どもたちを褒める機会を増やせると考えています。 |
| | 5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている | ○ | | | |
| | 6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している | ○ | | | 毎年2月に事業所向け自己評価及び保護者向け評価を実施し、4月にホームページで公表しています。 |
| | 7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている | | ○ | | 外部評価は受けていないので、今後検討します。 |
| | 8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している | ○ | | 他施設へ研修に行き、アドバイスをもらうなど学べる機会がある。 | 内容を吟味した上で研修案内を周知しています。過去に参加したことのある研修については、参加した職員が内容や感想などを伝えることで他の職員の研修参加への意欲を引き出しています。 |
| 適切な支援の提供 | 9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | 作成以外の職員も個別支援会議に参加している。 | |
| | 10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している | ○ | | | |
| | 11 活動プログラムの立案をチームで行っている | ○ | | | |
| | 12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している | ○ | | 毎月、全体で行いたい活動を設定して“みんなで楽しむ”ことを大切にしている。 利用時間が短いので必ず毎日活動を実施できているわけではなく、子どもの興味関心に応じて個別に考えている。 活動は設定されているが、児発ほど取り組みに対して力が入っていないのが現状。 利用時間が短い子どももいるので設定された活動を行うことができないこともあるが、週に1度クッキングなどを行い固定化しないようそれぞれが楽しめる活動を考えるようにしている。 | 活動プログラムは毎日工夫して設定していますが、子どもたちは意思をしっかり持つので活動以外の遊びを目的に来所することも少なくありません。利用時間が短い中、やりたいことをやらせてあげたい！という気持ちはありますが、そのような中でもできるプログラムもあると思うので、子どもたちがワクワクするようなアイデアを出し合い検討し取り入れていきます。 |
| | 13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している | △ | | 長期休暇は児発の子どもたちとの交流時間も多くなる為、それに伴い支援方法が変わることもある。 | 長期休暇は利用時間が長くなると共に、普段は見られない食事の様子なども見えてくるので、職員間で課題や支援方法を確認して関わられるようにします。 |
| | 14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している | ○ | | | |
| | 15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している | ○ | △ | クッキング等、綿密に配置を行う必要があるものは、朝打ち合わせを行い実践につなげている。 | 活動に対する打ち合わせはできていますが、個々の支援に対する打ち合わせは必ずしもできているとは言えないので、意識して行っていくと思います。 |
| | 16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している | ○ | △ | その日のうちに行えていないことがあるが、翌朝には前日にあったことを共有している。 支援の振り返りはできていない時がある。 児発に比べて話し合いをすることが少ないが、支援終了後には情報交換を行うようにしている。 | その日のうちに全員に共有することはできていないので、顔を合わせて話し合いができなかった職員にはICTなどを活用して共有できるように検討していきます。 |
| | 17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている | ○ | | ケア記録を残している。 ケア記録などで良い面も悪い面も記録に残し、次へ繋げるよう努めている。 | |
| | 18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している | ○ | | | |
| 19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている | ○ | | | | |

| | | | | | | | |
|--------------|----|--|---|---|--|---|---|
| 関係機関や保護者との連携 | 20 | 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している | ○ | | | | |
| | 21 | 学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている | ○ | | 必要に応じて行っている。保護者を通して月のおたよりなど行事や活動予定のコピーをとらせていただき、予定を把握できるようにしている。 | | |
| | 22 | 医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている | / | / | | 対象者なし | |
| | 23 | 就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている | ○ | | 同法人のこども園を卒園した子ども多いので、情報共有をしたり、元担任が様子を見に来てくれることもある。 | | |
| | 24 | 学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している | / | / | | 対象者なし | |
| | 25 | 児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている | △ | | | | 放デイの利用児を対象とした助言や研修はほとんど受けられていないので、機会を見つけていきます。 |
| | 26 | 放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある | ○ | | 今年度は希望が丘児童クラブと合同交流活動として“クリスマスコンサート”を行った。来年度はこういった合同活動の機会を更に増やしていきたい。隣接する児童クラブに遊びに行くことも多く、交流する機会は十分にある。 | 希望が丘児童クラブとは、毎年交流させてもらっている焼き芋、餅つきに加え今年度はコンサートを合同主催で行いました。放デイは曜日固定なので活動に参加できない子どももおり、児童クラブへ遊びに行かない子どももいるので、できるだけ多くの利用児が交流できるよう活動等の機会を増やしていきたいと思っています。 | |
| | 27 | (地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している | | ○ | | | 令和6年度は『こども通所支援事業所連絡会』へ管理者以外の職員も数名参加しました。自立支援協議会へも機会があれば参加していきます。 |
| | 28 | 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている | ○ | | 送迎時に、利用中のちよとした姿などについても共有できたと感じる。比較的確めに話し合いを行っている。 | | |
| | 29 | 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている | | ○ | 保護者に寄り添うことは意識している。プログラムではないが日々の会話の中で支援を行っている。 | | プログラムとしての支援は行っていません。必要な方へは相談に応じたり、施設等でやっている支援方法をお伝えしたりしています。 |
| 保護者への説明責任等 | 30 | 運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている | ○ | | | | |
| | 31 | 保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている | ○ | | | | |
| | 32 | 父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している | ○ | | イベント時に保護者交流会を行っている。 | | |
| | 33 | 子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している | ○ | | 不満や不安、苦情等が出た時にはすぐに上司に相談するようにしている。 | | 苦情ではありませんが、意見や提案をいただくことはあります。その際は保護者の方の思いを丁寧に傾聴した上で内容の本質を見極め、自分達ができることを伝えたり、一緒に考えたり、調べたりしていくようにしています。 |
| | 34 | 定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している | ○ | | | | |
| | 35 | 個人情報に十分注意している | ○ | | | | |
| | 36 | 障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている | ○ | | | | |
| | 37 | 事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている | | ○ | | | 見学はいつでも受け入れを行っていますが、事業所の行事への招待については行っていませんので、どのような形なら実施が可能か検討していきます。 |
| 非常時等の対応 | 38 | 緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している | ○ | | | | |
| | 39 | 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている | ○ | | | 消防署へ計画を提出した避難訓練2回(内1回は総合訓練)だけでなく、ふれあいセンター合同の避難訓練にも複数回参加をすることができました。 | |
| | 40 | 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている | ○ | | | | |
| | 41 | どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している | ○ | | | | |
| | 42 | 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている | / | / | | 対象者なし | |
| | 43 | ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している | ○ | | 怪我の共有はできているが、ヒヤリハット事例集の作成までは共有できていない。 | | 事例集は作成して目につく場所へ提示していますが、今回の評価で周知できていないことが分かりました。また、しばらく見直しができているので周知と同時に行っていきます。 |